

## 傍聴記録

2023年7月20日 午後6:30 - 石見公民館にて

記：松本

県： 知事

山下知事

文化教育くらし総合部長 船木部長

大和平野中央構想スタートアップ推進課 西本課長、北風さん

町： 森田町長、ほか。

住民： 地権者、石見自治会、石見耕地組合、傍聴（町会議員、県会議員）

== 知事の説明 ==

資料（8枚）ベースの説明

大学設置は前例から、施設建設費用として320億円はかかる。県予算6000億円/年の5%程度。また、維持費として数億円/年かかる。

大学は、そもそも国などがやるもの。県がやるにはそれ相応の理由が必要。県内の活性化に寄与させるのは困難。といった、過去の記者会見等の内容と同等。

結論として、「新たな県立工科大学は必要性がないと判断」

「大和平野の3つの拠点整備計画については再検討させていただきたい。」

== 会場から ==

Aさん)

大学設置が大変な事、いろんな課題があることは前からわかっていること。その上で、やるというから話に乗った。知事の説明は今更何を、の感がある。本日の場合は、それに対して棚上げの話を持ち出した知事との、その先の話だと思っている。

（大学設置が）大変な事、困難な事は承知の上。だからこそ、最先端の大学を、将来の子どもたちのために作る。町としても若い人が入ってきて変わってくる。そういう話だったから私たちは賛成した。

そもそも、先祖代々守ってきた土地。手間と費用をかけながらも守ってきた。大学の話の最初の時、途中で中止になることはないですねと確認した。その時、前知事や県職員は、「それは絶対ないです。知事が変わられても申し送りが出ていますので心配なさらなくてください。」と言っていた。これがもし商業施設だったら反対している。商業施設は、先がどうなるかわからない。10年15年でぼろぼろになる（だろう。）学校はそうではない。良くしてゆくのに、30年かかるか50年かかるかわからないけど、そんな夢があってもいいじゃないか。要は、

1. 「学校は困難」は、最初からみんな承知の上。いまさらそれだけでは中止の理由にならない。

2. 困難を承知で学校を作る、ということで土地を売った。商用施設なら売らなかった。

Bさん)

地権者は、大学が出来るのであれば全員賛成しよう、ということで協力した。これが民間であるならば、そうはならなかった。県や町だから信用した。こういう事になってこの先、誰を信じれば良いのか？ 詐欺にかかったように思う。

前知事からの引継ぎは無いのか？

今日も、知事の話はほとんどお金のこと。地権者の事、思いを考えてほしい。

山下) 前知事からの引継ぎは無い。

大学というのは、うまくいけば意味のある事業だと思うのですが、これだけ子どもの数が減っていく中で、公設で、後発で、そんな簡単なものではない。

前の知事が、そんな中でも最先端のすばらしい大学を作ることによって若者を呼び寄せるということだったようだが、その見通しは甘いんじゃないかなと思う。

現実的に、客観的なデータを踏まえて、ここに大学を作ってもなかなか優秀な人材を大学生として集めるのは難しいのではないかなと考える。

建設費320億。それが生きるのであればお金を使う意義があるが、財源は無限ではない。運営費を含めて、他の医療とか福祉とか教育とか子育てとかにお金を使うほうが県民にとって良いのではないかと思う。

方針変更については、選挙で県民が示した方向に私は従っていると思っていただきたい。

Cさん)

知事は発表で、「三宅町のような田舎には大学を作っても人が集まらない」とおっしゃった。しかし現実には、特色のある大学を作れば人は集まってくる。

畿央大学の例。理学療法士、管理栄養士、の養成を目指した新学部は希望者が多く、優秀。

(大学側は) みんないろいろ工夫をしている。

はじめから消極的な事を言っても何も出来ない。積極的に物事を考えていていただきたい。

Dさん)

現在、県内の学生はどこに行っているのだろうか？ 全部外に出て行っている。

知事には、それを戻そうという気は無いのか？ それで良いと思っているのか？

その上、さらに外からも人を呼び込もうとはしないのか？

やめるやめるといった話ばかり。

今、既に(若者は)大学に行く際に県外に出ていっている。それで良いではないか？ 本当が良いのか？

一旦ここまで来たものをゼロにするような、こんな事が4年に1回おきるのであれば、この先、何がどうなるのかわからない。ある程度前に進んだものは、多少の無理があっても、きっちりやっていってもらわないと話にならない。

山下) 他府県に行っている学生を県内に呼び込む方法は、別途努力はする。

県内に企業を誘致することや県内企業をサポートするなどして魅力ある職場を創出することだと思っている。しかし、若者の大都市で試してみたいという思いも大切にしたい。

E さん)

今日のこの会の意義は？ 私たちは意見を言う。でも、(結論が既に) 決まっているのであれば会の意味がない。今日の話をしっかり受け止めていただいて、考えていただくというのであれば意味がある。意見は聞きました、というので終わりではいけないと思う。

困難(だと言う)な話はわかるとして、逆にピンチをチャンスと捉えることはできないのか？ うまくゆく方法を考えてやってゆくという風に考えてほしい。

ここが、知事さんの腕の見せ所だと思う。そういう風に思っただけで実行していただければと思う。

F さん)

理工系の大学は既にあると、先端(大学院)、奈良女(女子大)をあげるのは間違っている。県内の理系の高校生は行くところがない。みんなどこに行っているのか、外に出ているのではないのか。

そういうところを蹴ってでも、地元の大学を選んでいただけるという大学を作るのは難しい。逆に、京大、阪大、神戸大、大阪公立大などに通えるというのが奈良県のいいところ。

G さん)

県の職員に、「話が変わって申し訳なかった」と、あやまってほしい。今日まで一切、そういった話が無い。今日話を聞いていて、奈良県に住みたくないと思うようになってきた。知事は4年かもしれないが、我々はずっとここにいる。長いスパンで方向を考えてやってほしい。

山下) 私があやまる。申し訳ございませんでした。

行政も市場のニーズを考えてやらなければならない。他の事業含めて、甘い判断が多いと思う。大学生の求めるものは何か、ということをしっかり捉えて事業を行わなければいけない。大和平野中央プロジェクトの目的から見ても、企業誘致ならば、ニーズに合致するものだろうと思っている。

H さん)

大学だけでなく、スタートアップに期待した。ハコモノをやめるというのはあるのかもしれないが、スタートアップにつながるようにどのような企業を持ってくるのが良いのか代案を示してほしい。

私たちはもう地権者でない。土地は県の持ち物。企業誘致でどのように使うかは私たちの

意見は聞いてもらえないだろう。(山下：意見は聞くが、みなさんに決定権は無い。)

私たちは三宅町のためになると思って協力しているのに、この先、県が県有地として用途を決めてしまうというのでは、変な話、買い戻したくもなる。

大学設置に代わる代案を持ってきて話をしてほしい。

Iさん)

3年も5年も、草草が続くわけではないのですね。

このままの状態でも長く放置しておくことは、アライグマやイタチが発生して大変。

Jさん)

1. 大学の全体としての動向が示されているが、電子、システム系の動向はどうか？
2. 文科省との関係は怎么样了なっているのか？
3. 大学は基本、国などと言うが、公立大学の例、滋賀県立大、福知山公立大学、兵庫県立大、で工学系（電子システム系）があり立派に成り立っている。
4. 出来ないからやめるでは発展はない。
5. 中南和の発展についてどう考えるのか？

1. 資料は大学生全体の人口。人口的には、工科系も同様に減少することになる。
2. 文科省とこれまでの話はない。
3. 挙げられた大学は長い歴史を持っている。近年の新設学校は、新潟三条だけしかない。
5. 中南和の発展については、大学以外の方法で発展する手法を検討してゆきたい。

==松本の感想==

- ・知事の説明にこれとって新たなものはない。
- ・住民は、「まとも」だった。(町長、役場や議会と違って)

住民の意見（まとめ）

- ・大学を作るということで賛同（買収に合意）した。民間なら合意しない。
- ・大学が困難なことは最初からわかっている。
- ・企業誘致、具体的にどういう企業で町おこしするのか、大学に代わる代案が必要。
- ・出来ない理由でなく、どうやって実現するかを考えてほしい。
- ・大学もやり方次第ではないか。
- ・長い目で町のこと県のことを考えて提案してほしい。

松本が思ったこと

本件、一旦立ち止まって「そもそも」から話をはじめることには異議は無い。

山下知事にとってみても、前任者から押し付けられたような政策を根本的理解無しに進めるのは良くないと思う。原点に立ち返って、「大学が必要なのか?」「なぜ大学なのか?」「勝算はあるのか?」「どういう状態になれば成功と言えるのか?」などを広く関係者に問い、関係者が納得の上で進退を決めるというプロセスを踏むべきである。

前任者の荒井知事にしても、三宅住民の意見は聞いていないが、少なくとも官民連携のコンソーシアム形式でというふれ込みで話を進めてきていた。山下知事が今回、仕切り直しを行なうのであれば、今度は産官学に合わせて地元住民も交えた形で、意義を問い直すというものであってほしかった。(私は民間初の奈良県知事と言う言葉に期待していたのだが)

知事の言う、「執行停止は今しか出来ない。建設に着手し出してからでは遅い。」は解る。「一旦止める」のは良い。しかし、この後のインタビューで言い切った「少なくとも、(大学は)無い。」には、さまざまな点から残念さを隠し得ない。

山下知事には、この時期に奈良県の知事になられた事、この時代に奈良県の舵取りを担うことになった意義をもう一度反芻していただきたい。

(奈良県の、日本の今の状況、問題に取り組んでゆくためではないのか。市長では出来ない、知事にしか出来ないことをやるための知事ではないのか。)

バブル崩壊後の失われた30年、国際的な地位後退、少子化、そして地方分権が進まず人口集中/過疎問題の解決無い時代に、奈良という地の舵取りが出来るということの意義。

日本の都市集中、過疎化は当たり前のこと、世の中の流れとして仕方の無いことではない。

奈良発で、北和と中南和がそれぞれ特徴を生かして、みんなで幸せになる県づくりが出来るようになれば、それは日本のモデルになり得る。

中南和に対して、企業誘致して産業振興を目指して豊かになれ、は違うと思う。自然に囲まれていて、まあまあ大都市にも近く、学ぶ場があり働く場がある。地元で普通に働けば、普通に生きてゆける。奈良県の全ての地をそのようにしてゆくことに尽力していただきたい。それこそが税金の使い途だと思う。